

# ヒヤッとする本

毎日暑い日が続きますね。そこで今回は少しでも涼しくなるような、ヒヤッとする本をご紹介します。また、各本どれくらいヒヤッとするかを「ヒヤツと度」で表しました。あくまでスタッフの感覚ですが、参考になればと思います。

- 30℃



## 『ひんやり和のおやつ』

金塚 晴子ほか著  
家の光協会  
596.6カ  
篠崎ほか所蔵

寒天に水まんじゅう、ぜんざいやフルーツ白玉……和菓子には、暑い今の時期にぴったりな冷たいお菓子がたくさんあります。夏になると食べたくなる、そして作ってみたいくなる、ひんやり和菓子のレシピ集。

- 110℃



## 『私は幽霊を見た』

平山 蘆江ほか著  
MF文庫ダ・ヴィンチ  
BF7  
篠崎所蔵

佐藤春夫、遠藤周作から石原慎太郎、稲川淳二まで……。昭和の日本を震撼させた怪談実話の傑作選。リアルな体験談の数々に、幽霊好きの私はその存在を再確認しました。幽霊は不意に現れます。次、見るのはあなたかもしれません。

- 80℃



## 『ベツィーは生きている』

(「血は冷たく流れる」所収)

ロバート・ブロック著  
早川書房  
933フ  
篠崎ほか所蔵

どんなことをしてでも成功し、大金と名誉を手に入れる……。ハリウッドを舞台に、アメリカン・ドリームの暗黒面を描いた本作。まさか、こんなことをしてまでも成功したいのか！ 人間の欲深さにゾッとさせられます。

- 50℃

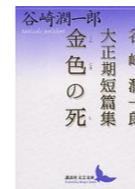


## 『お家でいただく、ごちそうかき氷』

石附 浩太郎著  
メディアファクトリー  
596.6イ  
篠崎ほか所蔵

夏といえばかき氷の季節。家で作ると、氷を削る作業から楽しむことができますよね。そんなかき氷を少し工夫して、お店で出てくるようなかき氷を作ってみませんか？ 鎌倉のかき氷専門店、桮庵のおいしくてかわいいかき氷のレシピ集。

- 150℃



## 『金色の死』

(「金色の死 谷崎潤一郎大正期短編集」所収)

谷崎 潤一郎著  
講談社文芸文庫  
BF夕  
篠崎ほか所蔵

「一番に美しいものは人間の肉体である」という主義の岡村君の目指した芸術の集大成とは……。涼しいというよりは、うすら寒くてぞわっとしそうな作品ですが、ただ涼しくなるのではつまらない、という方におすすめ。

- 170℃



## 『七階』

(「七人の使者・神を見た犬」所収)

ブツァーティ著  
岩波文庫  
B973フ  
篠崎ほか所蔵

ある病気を専門に治療する七階建ての病院。七階から下の階へ行くに従って症状の重い人が収容されるこの病院に、主人公のコレテがやってくる。最初は七階に入るが、病気とは関係ない理由で、次第に下の階へと移されていく。気がつけば二階にいるコレテ。残るは死を待つのみの一階だけ。そしてある日、総婦長がやってきて……。怒りと恐怖で大爆発したコレテの長い絶叫は、もしかしたら、あなたがいつかする絶叫なのかもしれない。

- 270℃



## 『赤いヤツケの男』

安曇 潤平著  
メディアファクトリー  
Fア  
中央ほか所蔵

古来より神の住む聖域とされ、異界であると言われてきた山。本書は山で起きた怪異を、著者自らが訊き集めた怪談実話短編集です。今年の夏、登山を計画されている方は、遭難や滑落だけでなく、怪異に遭わぬようお気をつけを……。

- 240℃



## 『ミステリーの系譜』

松本 清張著  
中公文庫  
BFマ  
篠崎所蔵

一夜のうちに30人近い人間を殺害する「闇に駆ける猟銃」、夫の連れ子を殺して食べる「肉鍋を食う女」等々、大正・昭和の事件を取り上げたノンフィクション。本当に怖いものは、事実の中にあるのではないのでしょうか。

- 200℃



## 『夜市』

恒川 光太郎著  
角川書店  
Fツ  
篠崎ほか所蔵

大学生のいずみは友人の裕司に誘われ夜市を訪れる。しかし、そこは妖怪たちの市場だった。夜市では命、若さ、才能など望むものは何でも手に入るが、何かを買うまでは決して出ることができない。異界の奇妙な雰囲気と、もとの世界に戻れないかもしれないという不安は、読み手にじわじわと恐怖を感じさせる。とはいえ、怖さだけではなく読後には悲しさと切なさが残る作品。ホラーが苦手な方にもおすすめできる一冊です。

- 300℃



## 『冷たい校舎の時は止まる』

辻村 深月著  
講談社文庫  
BFツ1-2  
篠崎ほか所蔵

寒い雪の日、高校三年生の鷹野たち8人は、なぜか突然学校から出られなくなる。そして一人ずつ姿を消していく。謎は深まり、次に殺されるのは自分かもしれないという恐怖にどんどん追いつめられていく……。冷たい学校を舞台にしたミステリー。

- 500℃



## 『マイナス50℃の世界』

米原 万里著  
角川ソフィア文庫  
B292ヨ  
篠崎ほか所蔵

1日の日照時間は、なんと4時間！ 外に出ると吐く息により1分で眉やまつ毛が凍りつき、魚を釣れば10秒でコチコチに。1年の半分以上は冬、一面真っ白の永久凍土。その氷の土地で培われてきた数々の生活の知恵。世界でもっとも寒い土地シベリアを取材したこの本。日本の寒さとはあまりにも違いすぎて、そのユニークさに寒さで眠るどころか、逆に眠気が吹っ飛びます。目の覚めるようなマイナス50℃の世界へご案内。

- 330℃



## 『八甲田山死の彷徨』

新田 次郎著  
新潮文庫  
BF二  
篠崎ほか所蔵

日露戦争直前、ロシアとの戦争に備え弘前第31聯隊と青森第5聯隊は八甲田山への雪中行軍を敢行。少数精鋭の弘前第31聯隊は、210余キロの行程を完全踏破しました。しかし、青森第5聯隊は指揮系統の混乱から199名の死者を出してしまう……。厳寒の八甲田で、仲間が次々と発狂し、倒れていく中で、当てもなく彷徨い続ける様子は地獄そのものです。自然の力の前では人間は無力だと痛感しました。私も登山をしますが、雪山には挑戦しないと心に決めました。

## そのメロディに魅せられて♪

### 『幻夢 シド・バレット・オールタイム・ベスト』

シド・バレット ピンク・フロイド G1シ08532 篠崎ほか所蔵

成功の弊害によって、(精神崩壊により)別世界の住人となってしまった“狂ったダイヤモンド”ことシド・バレット。フロイド期から残した数々の幻想的な曲は、現在でも人々を魅了し続けている。半ば廃人同然の彼から、な

んとか形にするまでこぎつけたソロ作は、ヨレた演奏にヒヤッとするが、それらを一蹴してしまう秀作に帰着させるのは彼の才能の賜物である。その身が減んで7年経ったが、今もダイヤモンドは光を輝き放ち続けている。